

ヤングパワー

- ・活動家労働講座開催される
- ・メーデーに青年部結集
- ・平和行進
- ・ヒロシマの旅

ヤングパワー
第2号
2008年
6月11日発行
発行責任者
星野 友和
編集責任者
安藤 伸和

活動家労働講座開催される

今後の青年部のあり方、徹底討論

三月二日・三日の二日間にわたり第三〇回青年部活動家労働講座が開催され、10支部28人、執行部7人合計35人の仲間が参加。職場の課題を持ち寄り「学習と交流」が深められた。

開會集會では、星野青年部長より春闘情勢と私たちを取り巻く課題を取り上げ、「賃金が下がり続け、これ以上

上の労働環境の悪化に歯止めをかけるためにも官民の共同に全力をあげていこう」と挨拶があった。

続いて、大島書記長より「サーマルリサイクルの本格実施で清掃事業はどう変わるのか」「新規採用を勝ち取るために何が必要か」という命題で問題提起を受けた。不燃ごみの減少による減員

減車が予想され、その先に不燃ごみの民間委託という当局の狙いがあることを学んだ。また、今後の課題について知識と共通の認識を得た。

また、今回は問題提起の後DVD上映が行われた。DVD上映では練馬支部の鈴木栄一さんから区の視察で訪れた函館市の状況報告を受けた。サーマルリサイクル先進地である函館市の直営車の稼働状況・分別状況・指導の仕事内容を説明してもらい、他都市の清掃事業の現状について学ぶことができた。

分散会では「職場実態について」「賃金について」「今後の青年部活動について」が2日間に渡り積極的に討論された。サーマルリサイクルが多くの区で実施され作業実態が各区により変わってきているなか、多くの仲間が自分の職場における情勢や課題、実態、悩みなどを抱えている。仲間からは「仕事はきつくなり、サーマルリサイクルが始まり今後どうなっていくか不安がある」「賃金は理不尽に下げられ、たまったもんじゃやない。職場での労働意欲は下がる一方だ」と不満の声が挙がる一方で「だからこそ労働組合が必要なんだ」「将来の組合の担い手として青年部は何をしていくべ

きなのか、どうしていくべきなのか」といった議論がさた。最終日には「格差社会がもたらす私たちに直面する課題」について金子副委員長より講演を受けた。企業の雇用率の低下が問題となっており、こうした状況だからこそ再度労働組合の本質を見直し、組合員一人ひとりが強い意志を持ち、組織に結集することが重要であると学んだ。

だ。あらたな清掃事業体形が始まった今、各区の主體的な闘いの強化が重要となってきた。今後の組織を含めた闘いのあり方についての議論が求められている。そうした中、この2日間で行われた職場段階での事態や経験の交流は大きな「学習」と仲間との「絆」となったに違いない。

五月一日に第七九回日比谷メーデーが開催された。東京清掃青年部は、21支部57人、執行部8人、計65と去年を上回る数の仲間が結集し、日比谷野外音楽堂の一部を作業服のスカイブルーで染め上げた。

青年部はこの日比谷メーデーをただの「労働者のお祭り」で終わらせないために、メーデー学習会の開催をはじめ、青年部独自で実行委員会を設置するなどして事前準備を重ねてきた。

当行為と闘う意思を持ちながら、都心をデモ行進した。その存在感は、当局に対し闘う労働者の強い団結力を十分に示すものとなった。

組合活動の制限が矢継ぎ早におこなわれているなか、去年を上回る参加人数65人の青年部が集結し、怒りの声を上げられたことは成功といえよう。このメーデーを意味あるものにするためにも、この勢いを失わないまま、次の運動につなげていくことが重要である。

式典での訴えや決意表明で団結の意思をさらに強めた青年部は、東京清掃の先頭に立ちデモ行進に出発した。当日の参加者65人は真っ赤にはためく青年部旗の下、全員作業着着用で団結の意思と、すべての不



絶やすな平和の為の活動!

沖縄平和行進&ヒロシマの旅

GW明けに毎年行われている沖縄平和行進およびヒロシマの旅に本部青年部が参加してきました。沖縄平和行進の内容としては、辺野古訪問、そして二日間に及ぶ「平和行進」をおこない、今なお残る戦場の形跡や、語り継がれる傷跡などを感じ取り平和の大切さを訴えました。

ヒロシマの旅では平和祈念公園や原爆ドーム、原爆資料館、呉の大和ミュージアムの見学をし、決して繰り返してはいけない過ちや、戦争の悲惨さを胸に刻み込みこんできました。戦争ほど無意味で悲惨なものありません。しかし憲法改悪など戦争のできる国づくりが進んでいます。これを許さぬために、反核平和の火リレーや、平和友好祭などに参加し平和運動の火を絶やさぬようにしましょう。

